

# センター 傾向と対策

## センター英語

### 【傾向】

#### 1 筆記

2007年度に形式が大幅に変化し、さらに2008年度に若干変化がありました。イラストについて正しく説明する文章を選ぶ問題などが増えましたが、[2]に文法問題が出るのは変わらないようです。[6]の物語系の長文が消え、論説文に変わっていました。

#### 2 リスニング

2009年度で第4回目となり、個別音源機器が配られます。英文は2回くりかえされ、難易度はそこまで高くないと思います。読まれる英文のスピードもそんなに速くないです。ちなみに個別音源機器は毎年何百個も故障しているらしいのでもし自分のものが聞き取りにくかったら遠慮せず試験官に言った方がいいでしょう。

### 【対策】

#### 1 筆記

二次対策をちゃんとしていれば単語などが分からず文章の意味が理解できないということはないと思います。ただ、センター英語は二次に比べて圧倒的に設問数が多いため時間がなくてできなかったということは十分考えられます。そのため、速読の能力が必要になってきます。

ここで私がお勧めしたいのがZ会の「速読英単語」です。知っている人も多いと思いますが、これは文章の中にある重要単語を覚えるという形式のものです。最初はじっくりと頭の中で1文ずつ訳し、隣のページの日本語訳を照らし合わせていき、徐々にスピードを上げていってください。これを毎日やると、「英文を読む」ということ自体に慣れていき、読むスピードも速くなっていくでしょう。一橋受験者はセンターにかかる時間が少ないので不安だと思いますが、英文そのものはそう難しくないの自信を持って受けてください。

#### 2 リスニング

2次対策のみで十分だと思います。ただ、センター前にはセンターと同じ形式の問題をやって形式に慣れておくといでしょう。英文は2回読まれるので、たとえ1回目でも内容がわからなくても焦らず落ちついてくださいね！ちなみに私はセンター前に家のCDプレイヤーが壊れたのでリスニングのCDが聴けず、センターリスニングは対策なしで挑みました…。

センター英語に不安がある人やマーク模試の点数に伸び悩んでいる人は上で紹介した対策をぜひ試してみてください！

## ||||| センター数学 |||||

**【傾向】** I Aは大問1に「方程式・不等式と集合と論理」大問2に「2次関数」大問3に「図形と計量」大問4に「場合の数・確率」が出題されます。II Bは大問1「三角関数・指数関数対数関数」大問2「微分法・積分法」大問3「数列」大問4「ベクトル」大問5「統計とコンピュータ」大問6「数値計算とコンピュータ」が出題されます。II Bは大問1・2が必修で大問3～6のうち2分野選択できるようになっています。センター数学はある程度の演習を重ねないと高得点は難しいです。記述式で本質的な数学力を磨きながらもマークの練習を怠らないように。

**【対策】** 出題範囲を一通り習った受験生は実際に去年の本試を解いてみましょう。記述式数学とマーク式数学は次元が違うということを実感してもらうのが狙いです。おそらく大半が「時間が足りない」または「最後の問が解けない」と思うでしょう。センター試験の数学は時間との勝負なので素早く正しく計算できる力はかなり重要です。日ごろの計算を丁寧に行ってください。また最後の問は解説を読むと決して難しい問ではないと気付くでしょう。しかし実際には解けなかったことに目を背けず、しっかりと解法を復習してください。60分ワンセットをやり終えたら自分がどこで詰まったか、解答中に気付かなかった発想などを自分なりに整理して次につなげること。どの大問でも最初の数問は公式知っているだけで解けます。そのため基本事項は正確におさえてください。またセンター数学は出題者の意図を読み取ることがポイントです。ほとんどが誘導式なので、最初に公式を知っていれば解答できるような問題でも、直接的にせよ間接的にせよ最後の問題を解かせるための伏線となっています。なぜこの数値を求めさせたのか？実は次の問題を解かせるために必要な数値であったの繰り返しです。与えられた情報・求めた情報を整理することは必ず得点に結びつきます。解法はある程度パターンが決まっているので演習量を重ねた人ほど点数は高水準で安定すると思います。

センター数学の対策を始める時期は？現役生も浪人生も11月中旬ぐらいがいいと思います。90点以上を狙いたいなら一ヶ月は対策したほうがいいと思います。

演習すべき問題は？まず2000年代の過去問（本試・追試両方）を全部解いてください。各予備校が出版しているマーク問題集は形式こそ似ていますが、センター特有のいやしさは出し切れてない偽物にすぎません。まず本物をしっかり演習してください。旧課程が途中から含まれるため、時間がない人は苦手分野だけひたすら演習するのもよい方法です。センター過去問をやり終えて余力がある人は黒→青の順番にやるといいと思います。黒本や青本をやる際には時間感覚を磨くよう意識してください。自分がどの分野をどの時間で終わらせることができるの、計算ミスをした場合に何分で見切りをつけるかの判断基準などを体に覚えさせること。

わからない問に対して具体的な数値を代入するなどの悪あがきはしてください。悪あがきで稼いだほんの数点で合否が左右されることも十分にあります。本番の緊張で焦ってしまう人もいますが、悪あがきの精神を忘れなければ深い傷は負いません。あきらめずに最後まで粘ってください。

# ||||| センター国語 |||||

## 【傾向】

センター国語は大問が4問の構成で、第1問が現代文（評論）、第2問が現代文（小説）、第3問が古文、第4問が漢文です。主に評論は漢字・傍線部の説明・要旨を問う問題、小説は語句の意味・人物の心情把握・表現に関する問題、古文は単語・文法・内容把握・和歌に関する問題、漢文は語句の意味・訓読・内容把握などが出題されています。今年は評論の表現を問う問題・古文の文学史と文章表現の問題・漢文の文章構成に関する問題が新傾向でしたが、大きな傾向の変化は旧課程から新課程に移ってもほぼありません。また、国語は配点が200点に対し問題数が少ないので他の科目と比べ1問の配点がとても高いです。今年は昨年と比べ易化したため来年は難化の可能性もあるのでセンター国語は十分に対策すべきだと思います。

## 【対策】

＜現代文＞センターは当然すべてマーク式ですが、普段から記述の練習をしておくことをお勧めします。それはセンターの選択肢には文が長いものや紛らわしいものが多く、選択肢を見る前にある程度自分の中で答えを用意していなければ、惑わされてしまうからです。もちろん、センター前には過去問の演習が必要です。演習の際、選択肢が1つに絞れないこともあると思いますが、そのときは評論ならば問題文全体または該当部分の意味段落の要旨を、小説ならば該当する場面や人物設定を考えると絞れることが多いです。また、評論の漢字や小説の語彙に関する問題は毎年出題されているので、苦手意識を持っている人は日頃から辞書をまめに引くなどして対策をしていくのがいいと思います。

＜古文＞古文単語・文法知識は小問としても問われますし、読解にも必須なのでもし不安があるなら必ず暗記しましょう。それらに加えて読解に必要なのが、常に人物関係を把握しておくことです。動作の主体・客体は文章中に書かれていないこともあります。そのときは敬語で判断できたり、後になってわかるということもあります。センター古文で得た知識は2次の国語の問題2で役立つので、特に古文が苦手な人は時間をかけて対策すべきです。

＜漢文＞漢文は句形・文法の知識が必須ですが、それらを覚えてしまえば短時間で確実に得点できます。僕は『早覚え即答法』を使って暗記していききました。この参考書はセンターに必要な句形が簡潔に書いてあるので、かなり使いやすいです。また、漢文では注が正解に関係していることが少なくないので、注は必ず確認しておきましょう。年によっては漢詩が出題されることもあるので対策しておいた方がいいと思います。

時間配分についてですが、国語の試験時間は英語と同じ80分なのに対し、英語よりも時間の余裕は無いと思うので、解く順番も重要です。僕の場合は、漢文→古文→評論→小説の順で、短時間で解答しやすい古典を35分程度で先に解き、残りの時間を現代文に使いました。ただ時間配分は人によってかなり異なるので、演習を重ね自分に合った時間配分を見つけてください。

最後に、センター国語は努力すれば必ずできるようになります。がんばってください！！

# ||||| センター世界史 |||||

## 【傾向】

センター世界史では一橋二次試験の世界史に比べて広く浅く知識が問われます。昨年度は前近代のアフリカの知識を問う問題が出題されました。また、地図上の位置を問う問題や文化史、年代配列問題や正誤問題などが問われやすいです。昨年度は難易度が上がったため、平均点が下がりました。今年度も昨年度と同様になると思って対策を練ったほうがいいと思われます。

## 【対策】

センター試験と二次試験で世界史の出題傾向は大きく異なりますが、二次試験の対策をしていればその範囲はカバーできます。他の範囲をどうするかということになるかと思いますが、基本的には教科書と問題演習で何とかできると思います。私はチェックペンを使って教科書の太字部分をマークしてひたすら覚えました。ただし教科書は何かと不親切です。書いてないことが当たり前のように出題されることも多いので、マーク模試や資料集を使って補いましょう。私は、参考書はあまり使いませんでした。「世界史Bの点数が面白いほどとれる本」(中経出版)を持っていました。表紙がちょっと恥ずかしいあのシリーズです(笑)。覚えやすいように知識が整理してあって、なかなかよかったです。これを使えば満点がとれるというような本ではありませんが、結構な高得点は期待できると思います。

傾向でも書いたようにセンター試験では地理的な知識を問う問題や年代配列問題があります。昨年度のセンターではエルバ島とサルデーニャ島の位置を問う問題やジャワ島とスマトラ島の位置を問う問題が出題されました。地理的な知識を問う問題については、地理的な知識が出てきたときに資料集などで自分なりに確認するしかないと思います。私は授業で都市名が出てくたびに資料集でその位置を調べて、大まかにノートに書き写していました。面倒な作業ですが、覚えた都市の場所などが試験で問われたときはかなり楽しいですよ(^◇^)

次は年代配列問題についてです。もちろん全ての事件について発生した年号を覚えるのがベストなのですが、それは不可能です。私は年号を覚えるのが苦手だったので、必要最低限の年号以外はあまり覚えませんでした。出来事を縦に覚えて(イギリス史とかドイツ史みたいな感じで)、だいたい1世紀ごとに他の地域の歴史と連動させて年代を把握していました。「イギリスで〇〇が起きた時にはフランスでは●●が起きていたから、〇より前の出来事の☆と、●より後の★の前後関係は☆→★の順番だ！」みたいな感じです。

最終的には正解以外の選択肢が間違っている理由がテスト中に分かるようになれば完璧です。うる覚えの部分が自分で把握できるし、なにより自分の解答に自信がもてます。

センター世界史は範囲も広くて大変だと思いますが、二次試験で世界史を解く皆さんなら大丈夫です。とにかくおおまかな流れをつかむことができればなんとかなると思います。頑張ってください!!!!

# ||||| センター日本史 |||||

## 【傾向】

センター日本史は6問構成で第1問がテーマ史、第2問が原始古代、第3問が中世、第4問が近世、第5、6問が近現代となっています。設問の形式は空所補充、正誤問題、並べ替えの3形式。近現代史の比重が高いこと、空所補充問題が全体の2割にとどまり単なる歴史用語の暗記では太刀打ちできないことなどが特徴として挙げられます。平均点の推移から見ると今年度は若干難化することが予想されるので十分な対策をしておく必要があります。

## 【対策】

センター日本史の対策において最も大切なこと、それは歴史を覚えることではなくて「理解すること」です。もちろん重要な歴史的出来事が起きた年（1603年、1868年など）、重要人物の名前などは最低限暗記する必要がありますが、前述したようにセンター日本史は暗記だけでは対処できません。正誤問題や並べ替え問題ではかなり紛らわしいものも出題されます。1問1答をやるよりも、教科書を繰り返し読んである出来事が起きた背景、関わった人物、それと同時期に起こった出来事などを正確に理解する方が有効です。センターの後には超難問の一橋日本史が待っていることも考えると1問1答とは早めに手を切ることを薦めます。

また近現代史の配点が高いことを考えると、夏休みまでに通史を終わらせておくことが必要でしょう。そうすることで後から焦らずに済みます。学校の授業の進度が遅い場合はその先をいくことになるので大変だと思いますが頑張ってください。

テーマ史に関しては『実力をつける日本史』を薦めます。この参考書はテーマ史が豊富なうえにとても解説が詳しく、センターのみならず私大や2次にも役立ちます。文化史、社会経済史など頻出テーマは確実に点数を稼げるようにしましょう。特に文化史は苦手とする受験生が多く差がつきやすいので狙い目です。嫌がらずに資料集を何度も見て問題演習を繰り返して下さい。

そして史料問題についてですがこれは日頃から教科書や資料集に載っている史料に目を通してあげれば大丈夫です。未見の史料が出題される事もありますがたいてい教科書程度の知識で解けてしまうので心配する必要はありません。

もちろん過去問演習もしっかり行ってください（遅くとも2学期からは解き始めるべき）。というのもセンター日本史では過去問の類似問題が出題されることが多いからです。私は10年分の本試験、追試験を2回ずつ解きましたが試験当日問題を見ると見覚えのあるものが散在していました。また過去問を解いたら必ず解説を熟読して下さい。ただ問題を解いて答え合わせをするだけでは意味がありません。間違えた問題のみならず正解した問題についても解説を読んで足りない知識をその都度補充していきましょう。

最後に、日本史の成績は直前まで伸びます。諦めずに最後まで粘ればきっと道は開けますよ！



## ||||| センター地理 |||||

### 【傾向】

新課程移行後、難化傾向が続いた地理Bだったが、昨年は易化した。組み合わせ問題が減少したこと、判定しやすい問題が増加したこと、知識を必要としないデータの読み取り問題が増加したことが要因と考えられる。出題内容としては、自然環境、資源と産業、都市、地誌、現代世界の社会的課題、地域調査と地理のほぼ全範囲を網羅するものとなっている。知識を直接問う問題よりも、地理的思考を問う問題が多い。

### 【対策】

私は2次試験では別科目を受験したので、二次対策との兼ね合いはよく分からないが、センター地理で必要な力は、細かな知識よりも地理的思考力だと思う。地理的思考力を養うためには、まずは、基礎的な知識の定着をはかることが重要である。その際には、用語を一つ一つがむしやりに覚えるというよりかは、地理的な理論を学んだ上で、ある事象の因果関係をしっかりと理解していくことが大切になる。論理的な思考力さえ身につけば、それを具体的な事象にも対応させて考えることが出来るようになるはず。また、地図や最新のデータなどにもこまめに目を通していくことも大切である。

夏休みまでに一通りの内容を学習したら、その後はセンター模試やセンター問題集、そしてセンターの過去問を解いていくなかで、勉強していけば着実に力がつくと思う。ただし、過去問をやる際には、現在とはデータが異なる場合などがあるので注意が必要。

### 【参考書】

センター地理Bに関しての参考書でおすすめしたいのが、『瀬川 センター地理B 講義の実況中継①、②』（語学春秋社）。＜対策＞項目にも書いたような、地理的思考力をつけることを主軸としていて、これ2冊を2～3周するだけで相当力がつくと思う。問題を解く際などにも、該当するページを読むことで理解が深まる。

予備校出版のセンター問題集に関しては、もちろんたくさんやるに超したことはないが、本試とは異なるタイプの問題（細かな知識問題など）が相当数含まれていることもあることも留意しておいた方が良いと思う。やはり、過去問を解くことが最も良い対策になることは間違いない。

### ＜最後に＞

私は、上にも書きましたが二次社会は別科目だったので、正直センター地理対策はかなりおろそかにしていました。でも、夏に一通り上記の参考書をやっていたおかげで、それなり（？）の点数を取ることができました。二次や私大で地理を選択する人も、私のようにセンターのみの人も、時間がないからといって知識の詰め込みに走らず、急がば回れの原理で、論理的な思考力をつける勉強をしていけば、きっと良い結果が出ると思うので、頑張ってください！！

# センター現代社会

## 【傾向】

センター現社は理系の人が多く受けているせいもありますが、倫理、政経に比べると毎年比較的平均点が低く、最近は時事問題に関しても正確な知識を要求する問題が出題されています。また現社は短期間で点を伸ばすことができる科目でもあります。倫理のように教科書が絶対的なバイブルではなく、幅広い知識が必要なためこれだけ勉強すればこれだけとれると断言しがたいものがあるので、この科目を得点源にするのは得策とはいえない気がします。

出題形式としては、正誤問題、空所補充、グラフ表の読み取りが主で、グラフ表読み取りのところはほとんど知識がなくても正解にたどりつけるもんだいなので、確実にしておきたいです。

## 【対策】

私の場合は「まるわかり現社」（日本実業出版）一日15～20ページのペースで読み一か月をめどに仕上げました。またその読むときにでてきた知らない単語は「現代社会用語集」（山川出版社）で調べ疑問点を晴らしていき、現社を解く上で必要な基礎知識を習得していききました。そして、前日読んだところの再読も欠かさずしていました。しかし、学校でしっかりとした現社の授業が行われそれをしっかり吸収しているというのであれば、この段階は飛ばしても構いません。次に行うのはやはり徹底した過去問演習です。ここで重要なのはやはり解説を熟読することだと思います。わたしは解説で知らなかった箇所に蛍光ペンで線を引き翌日演習を始める前その箇所を読み直し知識の定着をはかりました。またこの時、用語集を引き直したり、まるわかり現社にもどって知識の再確認も行いました。この演習で明らかになっていく知識の穴を確実に潰していけば必然と得点が上昇していくはずで。

一通り過去問題演習を終えた後は各予備校が出している予想問題の演習に移ってもらいたい。基本的に過去問のときと同じやり方で問題ないとおもいます。またセンター本番までに残されている時間を考えると問題集にもやはり優先順位をつけてやるべきだと思います。わたしは河合塾、Z会、駿台『黒本、緑本、青本』をこの順番で優先的に解いていくべきだとおもいます。黒本はセンターに必要な知識を無駄なく学べますし、新たな知識を得るだけの読み応えのある解説が魅力です。なのでこれにまずてをつけてほしい。つぎにお勧めなのがZ会の緑本です。これは最近の時事問題をほかのに比べて多く掲載している気がしましたし、解説が二色刷りで読みやすかったです。最後は青本です。青本も詳しい解説があるのですが、細かい知識まで載せすぎている感がありました。これを暗記するのは決して無駄ではありませんので、時間に余裕がある人はここまで手をつけても問題ないと思います。

# ||||| センター倫理 |||||

## 【傾向】

センター倫理では、第一問は青少年の課題、第二問は源流思想、第三問は日本思想、第四問は近代西洋思想、第五問は現代の倫理的課題といった問題形式が数年続いています。近年では読解力や論理的思考力を要する、つまり用語の丸暗記だけでは対処することができない設問が増える傾向にあります。また各分野は毎年ほぼ均等に出题されているので、当たり前のことですが不得意分野を残さないことが大切であると言えるでしょう。

## 【対策】

センター公民選択の中では他の2科目に比べてちょっとマイナーな倫理。でもそこそこの勉強で安定した高得点の獲得が期待できる科目なんです！

まず最初は教科書や参考書などを一通り読んで、基本事項の内容を正確に理解しましょう。基本事項についての記述はどの本もあまり大差はないので何の本を使うかということは特にこだわらなくていいと思います。ただ何冊にも手を出すのはやめたほうがいいかもしれません。ちなみに私はZ会出版の『解決！センター倫理』を愛用していました。この本は文章だけでは理解しづらい項目も豊富な図や絵を使って説明されていて、とにかく内容が頭に残りやすいです。教科書を読んでいると眠くなってしまうという人にはオススメの本です。また、この段階ではまだ細かいことはさらっと読む程度でよいと思われます。

次にだいたいのがわかったら早速問題演習へと移りましょう。本を読んでもただだと知識は身につけているようでも、それが点数に上手く活かせないことがあります。ここで演習に一番適しているのはセンター本試験の過去問だと思います。何年分も解いていくうちに、センターの頻出ポイントやセンターお得意の聞き方や選択肢の作り方が見えてきたりします。わからない所がある度に自分の本に戻って該当箇所を読んだりそれがなかったら自分で書き込んでいきましょう。面倒だと思わずに過去問をやっては本に戻って関連事項等を確認するという作業を繰り返すことで知識が広がり、高得点への近道となります。各大問の最後にある問題の多くはリード文の全体を把握しているかを問う問題であり、これは倫理の知識を活用するというよりは単なる国語の問題です。だから本番でも焦らずにきちんと文章を読めば必ず正解にたどり着けるはずですよ。また、第五問の対策は過去問だけだとかなり不十分だと思われるので、他の問題を解くことをお勧めします。新聞を読んだりニュースを見ることも社会的な知識を増やすということで役に立つでしょう。

センター倫理ではとても細かい知識を要求する問題が毎年1問ぐらいは出題されることがあります。しかしその問題のために用語集の単語などを隅から隅まで覚える時間があるのなら、センターで繰り返し繰り返し出されるところを確実にするなり他の科目の勉強をするなりしたほうが有意義だと私は思います。

最後になりましたが、皆さんの健闘を心からお祈りしています☆



# ||||| センター政治経済 |||||

## 【傾向】

基本的な知識や理解を問う問題を中心に、資料や図表の読み取り問題などを取り入れて総合的な知識や理解力が求められます。国内政治・経済と国際政治・経済をバランスよく学習し、時事にも関心を向けることが高得点を取るカギを握っています。2008年度の問題は2004年度の問題と内容が非常に似ていました。時間がない人は最低限過去問演習はやりましょう。

## 【対策】

政治経済は興味関心があるないで学習の進度がかかなり異なってきます。政治経済を選択する受験生は政治経済に興味関心あることが選択の必要条件だと思ってください。まず政治・経済の全範囲がコンパクトにまとまった参考書を一冊用意してください。その参考書を一度通読して政治・経済の内容をなんとなくつかんでください。ちなみに私は「畠山のスパッとわかる政治・経済爽快講義」を使用しました。あとはひたすら演習の繰り返しです。過去問を演習する際に注意が必要なのが、法律改正や統計変化の関係で一部訂正が必要な問題があるということです。もちろん現代でも通用する問題はかなりあるので、うまく問題の整理がされている予備校のテキストや一般販売されている問題集を積極的に活用しましょう。個人的には最新5年分の本試・追試さえ解けばあとは各予備校のマーク式問題集を演習すれば大丈夫だと思います。ワンセットやるごとに必ず解答解説を読むこと。そして未知の情報に出会ったらそのつど用意した参考書に振り返ってラインマークするなり書き込むなどして復習するといいです。解説や参考書を読んでも理解できない場合は先生や友達に質問するなり、用語集等で調べましょう。また参考書には載ってない時事問題に関する情報は、関係のある分野の余白にメモすることをおすすめします。何回か演習を重ねたら、もう一度通読してみましょう。政治経済の内容全体を見直すことができ、演習で間違えた部分の復習ができます。一冊の参考書にすべての情報をひとまとめすることで、二回目の通読を行うとき内容が一回目よりも充実します。とにかく演習を繰り返し、参考書に書きこむことの繰り返しです。細い色ペンで記入してキレイにまとめると復習のときわかりやすいです。時事問題の対策としてはマーク模試を受けることに尽きます。というよりそれ以上のことはする必要がないと思います。マーク模試をキチンと復習して先ほどを同様に参考書に未知の情報を書き込めば大丈夫です。最後の詰めの時期であるセンター直前には日本国憲法を一度読んでください。憲法が絡む知識問題は複雑ですが条文を読んでいると楽に解けます。現役時に現代社会だったが政治経済変えようか迷っている人がいます。私は浪人の9月に政治経済に変えました。現代社会で得た表面的な政治経済の知識があれば秋からでも間に合います。またあくまでも個人的な意見ですが、2次に日本史を選択する場合政治経済はマジメに勉強してください。センターの政治経済で得た知識の一部は2次日本史に直結します。逆にいえば夏休みに日本史の対策を始めるとするとその一部が政治経済につながります。そういうモチベーションで臨めば集中して対策できるはずです。これが配点の低い公民に対してモチベーションをあげるための私なりの工夫です。

## ||||| センター生物 |||||

### 【傾向】

H 20年度の生物は平均点57.64点で、H 19年度の平均点67.04点から大幅に難化した。新課程になって2年連続で平均が高かったことから、点数の引き締めを図ったものとみられる。

今年度の出題は第1問「細胞」第2問「生殖と発生」第3問「遺伝」第4問「動物の脳と効果器・体液循環」第5問「植物の成長と環境要因」と例年通り教科書の章分け通りのものであった。今年度設問の出題範囲を細かく見ていくと、第1問A「細胞と組織」は2年連続、第1問B「酵素」「浸透」は久しぶりの出題、第2問A「生殖」は2年連続、第2問B「発生」は頻出、第3問A「遺伝の法則」は2年ぶり、第3問B「連鎖組換え、伴性遺伝」は4年ぶり、第4問A「刺激の受容と動物の反応」はめずらしい出題、第4問B「自律神経・ホルモン」は頻出、第5問A「植物の成長」も頻出、第5問B「植物ホルモン」は3年連続となっている。例年出題されていた「動物の行動」は出題されなかった。以上を参考にしてほしい。また知識問題、考察問題と出題され、幅広い知識とその応用力が問われている。今年度は考察問題が多く出題され、難化の一因になるとともに、明暗を分けることとなった。

### 【対策】

一橋受験において、センター理科の重要性は他大文系学部に比べて大きい。社会学部においては尚更であろう。センターのみで使う生物にどの程度力を入れるべきなのかは判断の分かれるところだが、直前期のみの対策というのは避けてほしい。生物Iは暗記科目だという印象を抱いているかもしれないが、実際は知識の暗記に留まらず、知識を利用した思考力を求められる。そして高得点を取るには考察問題の攻略が不可欠だから、早い時期から地道に知識を習得し、演習に専念できる期間を残してほしい。

筆者の場合、高2から生物の授業が始まり、定期試験対策のために学校指定の問題集をやることで知識のインプット・アウトプットを行った。高3から過去問演習を始め、過去問の他には「センター試験必勝トレーニング生物I」（東京出版）を使用して演習を行った。

センター生物では知識問題においても考察問題においても、様々な図や表が用いられている。また自分で図や表を書くことが理解の一助になることは少なくない。であるから、学習を進める上で教科書・図表を大いに利用してほしい。視覚情報として捉えることは暗記の手助けになるし、図や表に多く触れていることはたとえ同じものが試験に出なくても応用のきく知識になるはずだ。

問題集・過去問・模試などの復習の際には、間違ったところを自分の愛用する教科書や参考書の該当箇所にチェックするといい。何がわからないのかが一目でわかり、次の出題時には克服されているに違いない。

受験が終わるまでつらい時期が何度も来ると思うが、心を折らずに頑張してほしい。その努力が報われる未来が必ず待っているから。

# センター化学

## 【傾向】

センター化学の問題は大問4つから構成されており、1物質の性質や構成、2理論（酸・塩基や熱化学）、3無機化学、4有機化学となっています。この傾向はこれからも続くと思われます。計算問題もそれほど多くはないとはいえ、必ず出題され、また新傾向として身のまわりの物質についての問いが出題されるようになりました。

## 【対策】

社学志望の人にとってはすごく重要なセンター理科ですが、個人的に化学は点を取りやすい教科だと思います。計算が難しそう、と思われがちですがパターンが決まっているので覚えてしまえばこっちのものです。勉強順は得意なところから始めるとよいと思いますが、特に無機の分野がおすすめ。この分野はほとんど暗記であるのに加え、大問1の勉強に通じるところがあるからです。

＜計算問題について＞

中和や熱化学、モル、電池の計算問題などは出題されるパターンがほとんど決まっているので問題を解いていく中で、解き方を自然に覚えてしまうと思います。また、有機分野の計算問題は特にややこしいですがこれもある程度のパターンがあります。なるべく多くの問題にあたってみることが重要です。

＜夏休みまで＞

この時期は英数国社などの二次試験の科目の基礎固めに忙しい時期ですが、少しずつ化学の勉強も始めてください。特に1・2年で習った分野をほとんど忘れてしまっている人は市販の書き込み式のノートなどで基礎を復習してください。計算問題も結局は基礎知識を集めれば解ける問題ばかりです。この時期から勉強を始めると、センターの直前になってあわてる心配もなくなります。精神的に余裕のあるうちから始めましょう。

＜夏休み＞

基礎に不安のある人は、引き続き簡単な問題を繰り返し解きましょう。一通り終わった人は、自分の苦手分野を中心に勉強を進めましょう。また、無機・有機などの暗記分野はこの時期を利用して一気に覚えるといいです。無機の分野は図解などを用いると色などが覚えやすくておすすめです。芳香族の変化などはとてもややこしいですが、手で図を描いて覚えてください。暗記分野が一通り終われば、秋の模試で必ず結果がかえってきますよ。

＜秋～冬休み＞

周りがセンター理科の勉強をはじめ苦戦している中、基礎固めが完璧に終わったあなたは勝ち組です！（笑）この時期はセンターの過去問や予想問題を解くといいです。このとき気をつけてほしいのは時間配分です。ややこしい計算問題は解く時間が結構かかります。計算問題を全部とばして一通り解く、というのも一つの手だと思います。（マークミスには気をつけてください）

### <直前期>

この時期が一番重要です。社学の人にはなによりも化学を優先させてください。この時期は予想問題を毎日必ず大問1～4まで通して化学を解いてください。間違った箇所や暗記できていなかったところ、新しく知ったことはノートにまとめるという作業は必ずしてください。一気に点数があがりますよ！途中から似たような問題ばかりになってきますから。また、身のまわりの物質についての問題ですが、教科書に載っている、普段の勉強ではあまり読まないところを見ておくといいです。

## Column：新歓期

大学に無事合格して、まず最初に訪れるもの・・・それが新歓期です。一橋ではなんと大学の入学式以前から新入生向けのイベントをたくさんやっていて、事ある毎にサークルや体育会からの勧誘の嵐が待っています。そして、ほぼ確実に勧誘ついでに何かしらのお誘いがあります。具体的には、ご飯やコンパ、まれにカラオケなんかもありますね。これらは基本、全部上級生が奢ってくれるので絶対参加すべきです。頑張れば、四月の食費を0円にすることもできるかもしれませんよ。更に、先輩から授業の話やサークルの話、履修登録の話なんかも聞けちゃいます。しかし、なんといっても一番いいのは友達が出来ることです。早いうちから知り合いをいっぱい作れちゃいます。新歓期はとっても楽しい時期なので、受験生の皆さんはそれをモチベーションに頑張ってください。

## Column：新歓合宿

一橋では、入学後に新歓合宿が行われます！毎年、新入生の95%が参加しているそうです。クラスの子とすごく仲良くなりますし、本当に楽しいです！1日目は懇親会などクラスの仲を深める楽しいイベントが行われます！また、オリターと呼ばれる去年同じクラスだった方も数人合宿に同行され、時間割の組み方などの説明をしてくださいます。2日目はどこかに観光に行きます。（ちなみに今年は牧場でした。）合宿後に最初のクラスコンパが行われるクラスもあります！私は合宿前の段階でクラス内に知り合いはほとんどいませんでしたが、合宿でいろんな人と仲良くなれました！朝に初めて会ったはずなのに、夜には修学旅行のような気分になってテンションも上がり、深い話をしちゃったりしました（笑）すごく良い思い出になりましたよ！一橋のような人数の少ない大学だからこそ、可能な行事だと思います。みなさんも、入学したら是非参加してくださいね♪

## Column：スポーツ大会

今年のスポ大ではリレー、大縄、多脚走、玉入れ、宝探しの5種目が西キャンパス奥のグラウンドで行われました。大学生にもなって運動会みたいなことをするなんて…と思う人もいるかもしれませんが、意外と盛り上がる新歓行事の1つです。どのクラスもスポ大の2週間ぐらい前から昼休みに西キャンパスのグラウンドに集まって大縄などの練習をします。これに参加することは、受験で鈍っている体を動かすこともできるしクラ友とも仲良くなれるし一石二鳥です。当日はクラスお揃いのTシャツを着てクラスの一体感を高めます。目指すはもちろん優勝なのですが、これを通じてクラスの団結力が一段と上がることにとても意味があると思います。



# ||||| センター物理 |||||

## 【傾向】

文系でセンター物理を選択する人は少ないですが、センター物理は他のセンター理科の科目に比べて暗記項目が圧倒的に少ないため、文系だけど暗記が不得意な人や、数学が好きな人にお勧めです。ただし、中学高校で物理を少しやってみて「これは無理だな。」って感じる人もいるそうなので、そんな人は無理して物理を選択する必要はありません。

センター物理は毎年大問が4題で、小問集合、生活と電気、波動、運動とエネルギー、からなっています。1問あたりの配点が大きいのでケアレスミスには要注意です。

## 【対策】

まずは物理の大枠をとらえるのが良いと思います。私はまず最初に「センター物理の点数が面白いほど取れる本」を読みこみました。この本は物理の基礎がとても分かりやすく網羅されているのではじめて物理をやってみる人などのセンター物理の導入には最適だと思います。これを読んで理解した後は市販の「マーク式基礎問題集」をやりました。もちろん問題集をやっているときに分からないことがあったら「面白いほど取れる本」で確認したり先生に聞いたりしました。ここまでやるとある程度の問題には対応できるようになると思います。12月ごろからセンター対策を本格的に始める前にここまでやっておくとかなり良いと思います。

センター対策を本格的に始めるころになったらまず過去問をやりました。ただ過去問は旧課程のものが多いため時間を計ってまとめてできるものが3、4年分くらいしかありません。そこで各予備校が出版している予想問題集を活用するのが良いでしょう。自分は河合、駿台の予想問題を友達と買って時間を計ってやりました。そのときは理系の友達とやると採点のときに分からないところを聞きやすいのでおすすめです。また一回解いた後に間違えた問題や自信がなかった問題だけコピーしてあとでやり直したりするのも良いと思います。

電気、波動、力学は数学のようなものなので、解法が一回身につくと計算ミスをしない限りだいたい得点源となります。これは理系の友人が言っていたのですが物理（特に力学）は図を描きましょう。図を描いてどこにどの力がかかるを描けばだいたい見えてくると思います。ところが、センター大問1の小問集合はそうもいきません。あれは知っているか知らないかだけのような問題の出題も多々見られるので(しかも1問5点)、問題集や教科書をよく読んでしっかり対策しましょう。甘く見ると痛い目にあいます。

最後になりましたが、センター物理はセンター理科の中で一番満点がとりやすい科目です。しかし数学的要素が強いため直前になって物理選択を後悔するかもしれません。そうならないように、出来るだけ早めに対策を始めて自分を信じられるまで問題をやりこんでください。では、頑張ってください。



## ||||| センター地学 |||||

### 【傾向】

地学は例年、固体地球分野、岩石鉱物分野、地質地史分野、大気海洋分野、天文分野の5分野が満遍なく出題されます。基礎的なことを問う問題が多いですが、うる覚えではなく正確な暗記が必要です。ちなみに今年は各問題の難易度の差が大きいので高得点は難しいけれど、基本事項で答えられる問題が多かったそうです。

地学は理系科目にもかかわらず、計算問題がとても少ないです。さらに、高校の地学の先生曰く、地学は全体的な勉強量が他の理系科目より少ないそうです。確かに全国的に地学受験者は少ないですが、数学や理科が苦手な方には非常にお勧めします！！

### 【対策】

夏休みが終わるまでに、教科書や参考書、問題集を使って出題分野に一通り目を通しておくのが良いと思います。冬から勉強を始めるのは危険だと思います！私は、学校の授業で理解を深めつつ、学校で配られた「ニューステップアップ 地学Ⅰ」（東京書籍）という問題集を使って演習していました。ただし、用語や現象を言葉だけ暗記してはいけません。なぜそうなるのか、という正確な理解が伴うと忘れにくいですし、理解していなければ解けないような問題もあります。

また、意外と見落としがちなのが教科書です。教科書は参考書に比べると読みづらいかもしれませんが、今年のセンター試験では、教科書に書いてあった実験に関する問題が出されました。読んでいたか否かが正解・不正解の分かれ目になったと思います。教科書はしっかり読んでおきましょう。さらに、視覚からの理解を深めるために、地学の勉強をする時は便覧を手元に置いておきましょう。天体の画像は綺麗ですし、面白いですよ。図やグラフに関する問題の対策にもなります。

12月頃からは過去問演習に入りましょう。その際、点数だけを気にするのではなく、問題に「本当に理解して選んだ答え」と「勘で選んだ答え」の印をつけると良いと思います。間違えた問題は勿論のこと、勘が当たって正解した問題もしっかり解説を読みましょう。そして演習していくうちに、自分の苦手分野と得意分野が自ずと明らかになると思います。苦手分野はまだしっかりと理解、暗記していない可能性が高いです。何度も教科書や参考書を読んで理解を深め、問題集を集中的に解いて克服しましょう。私は過去問演習をやりながら、自分が苦手だった天体分野を「セミナー地学Ⅰ」（第一学習社）で演習しました。さらに、赤本の前半に付いている「重要事項総チェック」を繰り返して、暗記に漏れがないか確かめていました。短時間で総確認できるので、お勧めします！

最後になりますが…私はいつもマーク模試で悪い点数を取っていましたが、直前の追い込みで本番では納得のいく点数が取れました。地学は暗記が中心になるので、勉強量と点数は比例するとっても過言ではないです。みなさん、頑張ってくださいね！心から応援しています！